

4月入学式

～小中学校の入学式にて～

4月の桜が満開な時期に福生市内の小中学校の入学式が執り行われました。
私たち福生市民生委員児童委員も地域の来賓として参列させていただきました。

【小学校の入学式にて】

多摩川の桜並木も満開で晴天の日、4月7日小学校の入学式が行われました。

学校正門の「入学式」の看板の前で新入生親子のお父さんが記念写真を撮っていましたので「家族と一緒に私が撮りますよ」と声を掛けて撮影していると、更にそれを見ていた方から「おじいちゃんも一緒に撮りますよ」と言われてしまいました。家族と間違われたことに朝からみんなで「すみませんでした」と何度も笑顔で謝り合って、ほっこりと心地よい一日のスタートになりました。

来賓の控室では朝早くから先生や地域コミュニティースクール委員の方々が忙しそうにしている中、地域の各町会長や保育園、幼稚園の先生方と一緒にお祝いの「桜茶」をご馳走になりました。桜の香りを楽しみながら、正門でのほっこり話や孫の話で花が咲きました。

入学式では新一年生の入場が始まると会場からは思わず「ワーッ可愛い」の声が上がり、拍手で迎えられる中を恥ずかしそうにしている子どもや、親御さんを見つけて手を振る子どもさんなどもいました。校長先生の3つの「あ」の話では「あいさつ」「あんぜん」「あさごはん」と先生の方を見て大きな声で答えていました。

6年生の歓迎の言葉はこれまで見たことない生徒の寸劇形式で、困ったことがあればお兄ちゃんお姉ちゃんが守るからと、悪いバイキンの姿をしたお兄ちゃんを撃退するなど劇団員顔負けの演技に安心したのは一年生の児童だけでなく、保護者家族や参列者全員が笑いに包まれ大変印象深い入学式でした。

大きく重いカバンを背負い上級生と一緒に登校する姿は初々しくもあり、やがて上級生になりを繰り返していくのですが、地域の方共々いろいろな形で関わり見守りを続けますので、学校関係の皆様方今後ともよろしくお願い致します。



【中学校の入学式にて】

青空を背景にした正門の見事な桜も満開に咲き誇る4月8日に福生市の中学校入学式が執り行われました。

3月までは私服で小学校の校庭を走り回っていたのに、卒業式では最上級生で一番身体も大きくハキハキと話し大人を驚かせていたのに、入学式では全員が制服に身を包みキビキビとした動作に驚かされてしまいました。卒業式で「僕の夢」「私の夢」を公言して何をなすべきかを決意したからなのか、入場する姿はとても堂々としていました。

校長先生から教育目標「自立・共生・貢献」のお話があり、共生の話の中では、校庭松林に設置してある、あいだみつおさんの石碑の紹介がありました「自分の番いのちのバトン」という言葉で「父と母で二人 父と母の両親で四人・・・なんと百万人を超すのです 過去無量のいのちのバトンを受けついで いまここに自分の番を生きている それがあなたのいのちです それがわたしのいのちです」との内容で、人格と個性を尊重して支え合い「いのちのバトン」を引き継いでいって下さいとの言葉でした。

福生市は外国から移住される方も多く国籍も様々で、一番大変なことは言葉の壁や文化の違いだと思いますので、人格と個性を尊重して支え合うことは子どもの世界だけではなく必要なことだと思います。

学校の授業に追いつくために学校とグローバルスクールが連携して一定期間日本語や漢字、ひらがな、カタカナを学び、理解して書けるようになった生徒の手紙やハガキを見たことがあります。大人より上手な文字と文章を書いていたので大変驚いた記憶があります。その時グローバルスクールの先生に外国の子どもさんにはどのように接したらよいかを質問したところ「日本人の子どもと同じように、悪さをしたら叱る、良いことをしたら褒めること、普通に接して分からないことはちゃんと教えてあげてください。」との回答でした。難しく考えることはないのですね。

「ご入学のみなさまおめでとうございます」新しい友達との出会いを大切に学校生活を楽しんで「夢」を叶えるよう努力してください。応援しています。

